



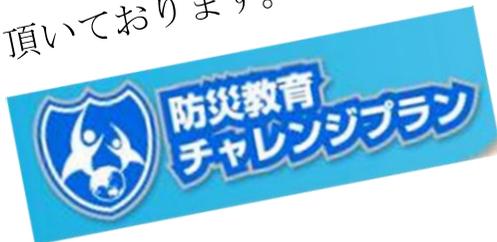
讃岐平野

中央構造線

瀬戸大橋

香川はだいじょうぶと思いい込んでいませんか？ 家族の命を守ること、考えてみませんか？

2017年度「防災教育チャレンジプラン」
の支援を頂いております。



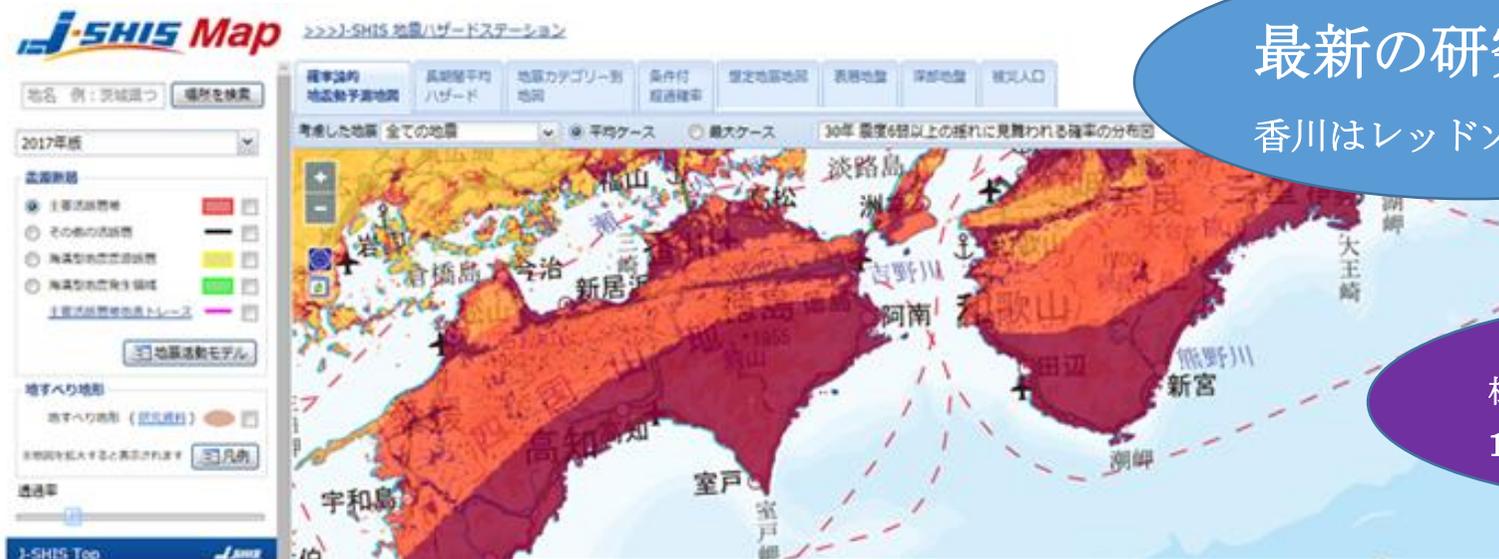
私たちは、「オール香川」として自然災害に向き合うことのできる
コンソーシアムの形成を目指しています。

- ① 増え続けるインバウンドのゲスト、外国人労働者に向けた「BOUSAI」
- ② 空洞化してきた都心部が一転、高層マンションの増加 「避難しない避難」
- ③ アウトドアライフブームと「防災」を関連付け、キャンピングカー防災拠点
- ④ お遍路文化に根ざす「おもてなし」「お接待」。空き家のシェルター利用
- ⑤ 楽しく学べるフェスの開催
- ⑥ 高齢化が急速に進む地方防災の在り方

こんな提案いかがですか。

四国遍路の心でつなぐ 防災教育研究会

J-SHIS で検索していただきますと、防災科学技術研究所による、様々な役立つ防災データがご覧いただけます。
 あなたの地域の特性を、良く知っておくことが大切です。



最新の研究から
 香川はレッドゾーン

松平藩の古文書から
 1707 宝永地震の高松の被害

2004 年高松の高潮災害の浸水域と江戸時代の津波浸水域が見事に符合する。
 時代は流れても地形は変わっていない。

高松城下に6尺の津波 死者多数
 六尺の津波では致死率100%
 今、同規模の津波が来たら...

白濁した水の湧出 液状化
 県議会教育長答弁に、香川の遺跡調査の結果、8割に液状化の痕跡を認める

日のうちに45度の余震
 揺れは繰り返してやってくる

消暑漫筆 匹「松平公益会
 表紙朱書

「此書中村十竹翁編輯スル如ニシテ且ツ自筆也珍重々々」
 序ニ曰ク「今「天保八とせといふ年の閏月六十九第十竹道人述」
 一惠公御代宝永四亥十月四日大地震ニ而御座候由兩親咄承
 候、何程之ゆりに候哉と尋候得共往来一足も引事なら
 す丁々の土塀と土塀と大方打合程に覚候由、四日一日ニ
 而止夫々天水之さぶくこほれ候程の地震間もなくゆり
 大方其年中不静候由、日之内に四十五度ゆり候事も有
 之十月中ハ小屋住居ニ而本家へ入候事ハ不相成候、土地
 われて白キ水流れ出後ニハ風色成何共合点不行髭生候由
 前代未聞之事の由、家中郷町共家破損ニ付御蔵を開御救
 米錢被下候由兩親物語ニ候

○十竹曰地震の事余詳なる事ハしらね共爰に記せる所実事
 にて古今珍敷天変なり、或人の記に三月朔日地震、八月
 十二日大雨降、同十九日大風、九月十九日大風雨、十月
 三日晴天夜星不見、翌四日未の刻より大地震、地裂白水
 湧出高潮来り平地之上深事六尺、御城下人家多破壊し人
 馬死者多し、とあり、地大に震ふ前にハ地氣はけしく上
 騰して天氣を閉塞し鷺鳥其外諸鳥の空を飛事あたハす皆
 石を投たる如く田野に墜るとなり、右に云晴天に星の見
 へさると地氣上りて天を覆へる故なりとなり五剣山一峰
 崩れ墜たるも此日の事なり、扱彼かいへる如く其年中少
 しつゝの地震続て漸十二月の中比に至て止ぬとなり珍敷
 大変なり、其土地に生へたる髭のやうなる物にて小兒鬢
 とりて鬢ひと違しよし合点のゆかぬものなりとなり

香川に大きな地震は来ないとい
 テマを信じていませんか
 大丈夫 災害のない地域だから!!

年齢を重ねれば、見えにくくなる、聞こえなくなる、動きにくくなる…20年後の四国は人口の40%以上が「高齢者」になります。県民の国際化も課題に。また、南海トラフ地震、東南海トラフ地震に加え、中央構造線由来の直下地震も危惧されている今、もしもの時に行政頼みにしない、そして自分たちの命は自分で守れる知識と行動力をみんなで身に付けて行こうではないですか。「災害弱者」への防災教育に取り組んだ「香川県立盲学校」のチャレンジプランの取り組みを、社会実験を交えて一般化を図る取り組みです。

みんな集まれ この指とまれ 防災の輪っ!!

歳とれば 誰でもみんな 障がい者

6つのWGの活動

- ①高松空港が国際線4路線に拡大 外国からのゲストの伸び率は全国一の宿泊者数35万8360人泊 また、県下の外国人労働者も大幅に増加 …**県危機管理部局だけでなく、国際観光振興部局との連携を開始**
成果 香川県観光協会・コンビニ事業者などとの協力関係を締結。ベトナム・ネパール・インドネシア等からの観光客や在留労働者への情報提供の仕方を研究中。成果物は、ホテルや旅館、事業所に置いていただき、成果を検証。
- ②空洞化してきた都心部が一転、高層マンション増加により、避難所が機能しにくい状態に …**「避難しない避難」「ミニ防災拠点化」の提案**
急増する高層マンションにおける防災対策の実践研究 さらに住民が高齢化したマンションも
成果 海辺の築40年、高齢化するイトーピア高松(410戸)自治会が、防災講演会、夜間防災訓練、巨大な災害発生時の選択枝の一つとして「避難しない避難」のための「マンション探検隊」や備蓄の開始。防災意識が著しく向上。全国各地からの照会が相次いでいる。 ※NHK「おはよう日本」で放送、読売新聞既報
- ③アウトドアライフが、災害時の生活を乗り切る知恵と体験につながるだろうか …**遊びと防災の融合**
アウトドアブームを受けた動き
遍路道歩き体験
四国霊場85番札所八栗寺～86番札所志度寺までの遍路道の海岸部、災害上の特性を歩いて検証。台風接近の風雨の中で実施。遍路の1200年の歴史の中から、自然災害に向き合ったお遍路さんの知恵、「お接待」で「おもてなし」をしてきたさぬきの風土を、実際に牟礼から志度までの遍路道を歩いて検証した。「災害って雨や寒さに関係なく襲ってくるんだね。」体験して分かったこと。体験してみないと分からないこと。
「お遍路カー(軽四キャンピングカー)」への着目
公共交通機関が疲弊している香川では、家族一人に一台と言っているほど軽ワゴン車が普及している。普段使いの車が、災害時の早期避難や過酷な避難所生活に代わる役目を果たせないだろうかという発想。特に高齢者にとって、避難所生活は過酷なはず。普段に近い生活環境を維持することで、関連死の減少に期待。
- ④**「女性目線の遍路小屋」 空き家対策、インバウンドのゲストへの「おもてなし」、そして「災害時シェルター」として …遍路小屋と災害応用**
外国人のお遍路さんも増加
女性目線での遍路小屋の製作・インバウンドゲストへの開放 JR高徳線志度駅周辺 シェルターとしての利用や少子高齢化で増え続ける空き家活用の一策にも
- ⑤**楽しく学べる防災を目指した取り組み …防災って他人ごとにしないうために**
防災フェス in サンポート高松
講演 よろず防災相談 ミニキャンパー車両展示 災害用伝言ダイヤル171メッセージコンテスト 衛星通信の展示体験 171災害伝言ダイヤルデモ機体験
防災クイズラリー 水消火器体験 サンポート高松デッキスガレリアで実施
- ⑥**高齢化が急速、人口が過疎地に散在、経済基盤がぜい弱な四国地方の防災対策 …我が国の将来に応用が期待 超高齢社会 行政の負担軽減に**
高齢者に理解される防災教育 生涯学習として展開 公的支援に頼らない(頼れない)自ら備える地方防災

①高松空港が国際線4路線に拡大 外国からのゲストの伸び率は全国一のべ宿泊者数35万8360人泊 また、県下の外国人労働者も大幅に増加

…県危機管理部局だけでなく、国際観光振興部局との連携を開始

岩手県の縫製工場で働くベトナム人研修生(20歳女性)協力

香川県高松市のLawson 従業員の協力でできたもの。

ネパール語 母国で第2外国語として英語を習って来日したこの店舗では、店長だけ日本人、あとはネパール人従業員。

日本語と英語は少し話せる程度。来日2年目、防災教育はベトナムで火災について高校で習った。洪水では家の屋根に上がれと教わった。来日して初めて地震を経験した。寮のみんなは外に飛び出したが、どうして良いか分からなかった。地震対応はこれまで習ったことがない。

2番目 tôi sẽ đi đến nơi có lửa

3 正しいです

5 nắm lấy cái tay cầm

6 cho nước từ bình chữa cháy

7 正しい

①消火器の使い方
Cách sử dụng bình chữa lửa

②火事のところにへ行く
Tôi sẽ đi vào lửa

③黄色のピンをぬく
Kéo chốt vàng

④ノズルを火に向ける
Cho vòi phun vào lửa

⑤黒いグリップをつかむ
Nắm lấy một va li màu đen

⑥消火剤がふきだす
Đại lý chữa cháy spew

⑦火の根元をねらう
Nhắm vào đáy

ベトナム語
日本人にはわかりにくい表現も混じっているという。
FBを介して、分かりやすい言葉への置き換えをしよう。

我が国で働く外国人労働者の国籍や言語の多様化に対応
「消火器の使い方」等の母国語化を推進

आगो बुझानेवाला कसरी प्रयोग गर्ने
消火器の使い方 How to use fire extinguisher

आगोको स्थानमा ल्याउनुहोस्
火事のところに持っていく Take it to the fire

अग्निमा नजल प्वाइन्ट गर्नुहोस्
ノズルを火に向ける Point the nozzle at the fire

पहेँलो पिन निकाल्नुहोस्
黄色いピンを抜く Pull out the yellow pin

पकड बुझ्नुहोस्
グリップをつかむ Grasp the grip

बुलबुले बाहिर
液が噴き出す Bubbles out

आगोको निचो पक्षमा उद्देश्य
炎の下の方を狙う Aim at the lower side of the fire

ネパール語対応 消火器の使い方





特別名勝「栗林公園」で旅行者へのアンケート調査 ピクトグラムの理解等

香川大学危機管理先端教育研究センター副センター長 岩原廣彦特命教授、学生、香川県技術士会がメインに。
NHK高松取材



電子ツールでの園内案内



●LCC等の航空機で高松空港に発着するアジア系の旅行者は、国籍や学歴などにより話せる言葉がまちまち。母国語しか理解できない人も多い。

清掃業務の職員からは、インバウンドのゲストが増加&多様化した分、掲示物の言語が理解できないのか、トイレを汚す例が増えたとのこと。

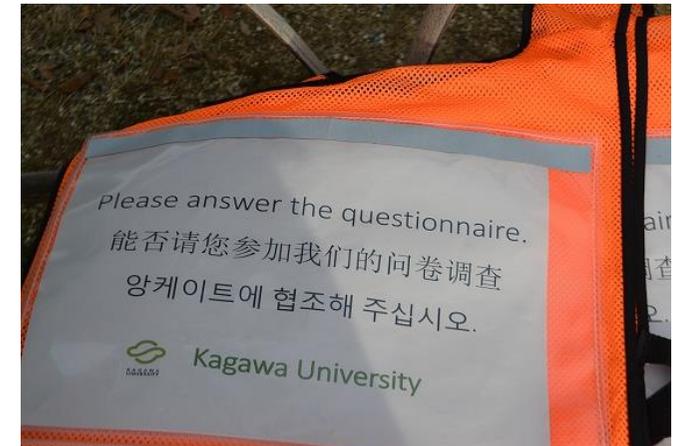
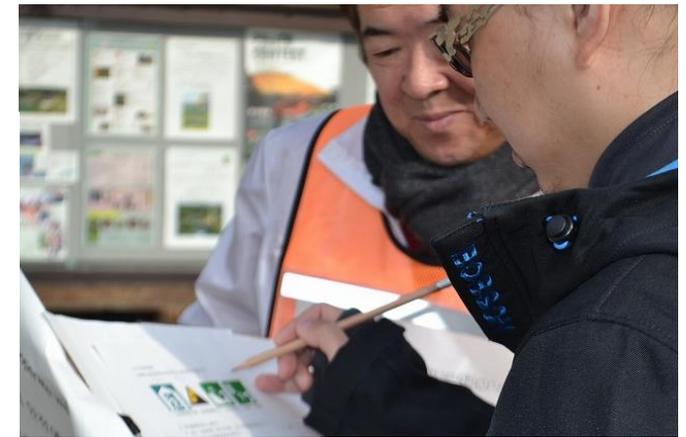
中国 香港 マカオ 台湾からの団体旅行者が多い。

●ヨーロッパ系の旅行者の多くはJRの JAPAN RAIL PASS の利用者が多かった。

特に鉄道の幹線が海岸部の津波浸水域を走ることの多い四国地方では、鉄道会社と地震や津波対策の安全施策の進め方について協議の必要性を感じた。

フランスやドイツからのゲストが多く、英語が通じる人が多かった。個人旅行が中心。

意外なことに、欧州圏の人たちの災害時情報の入手ツールに「ラジオ」という回答が多かった。



●NHK取材まとめ「安全がおもてなし」意外な課題も

・急増インバウンドを災害時どう守るか受け入れ態勢が課題

・香大。地震が起きたらどう行動すればよいか、どんな情報が必要かアンケート分析、観光活性化に生かしたい

・地震で「観光中止」「帰国する」約50% 不安心理

・避難所があれば安心、マップが欲しい…90%

観光旅行業界

・マップに浸水域や被害想定は入れないで欲しい。

・業界は宿泊が内陸に集中することを懸念。

今後 マップに津波避難ビルや避難所は記載する。ことばや食事、宗教の違いに対応できる避難所の提案が必要ではないか。行政や業界との連携推進が重要。

アンケート調査結果について

- ・ 実施日 平成29年12月10日（日）
- ・ 実施場所 栗林公園正面入口及び栗林庵前出口

回答者概要

(1) 外国人 36名

- ① 中国語利用者 22名（中国・台湾・香港など）
- ② 韓国語利用者 3名
- ③ 英語利用者 11名（フランス・シンガポール・マカオなど）

(2) 日本人 27名

合計 63名

アンケート結果（抜粋）

(1) 過去に地震の経験がありますか？

- ・ ある 38.9%
- ・ ない 61.1%

(参考) 日本人 ある 85.2%
ない 14.8%

過去に地震の経験がある
(外国人)



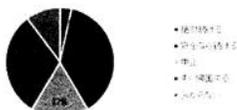
→ 地震を経験したことのない方が半数以上。南海トラフ地震のような大規模地震ではなく比較的小規模な地震であっても、不安等を感じるのではないか。

(2) 地震発生後も観光を続けますか？

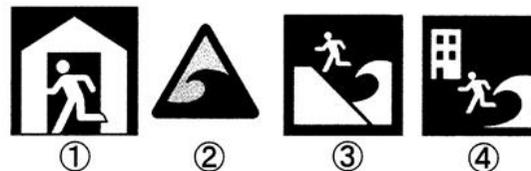
- ・ 絶対に続ける 3.4%（日本人の場合 0.0%）
- ・ 安全が確認できれば続ける 37.9%（日本人の場合 44.0%）
- ・ 中止する 17.2%（日本人の場合 12.0%）
- ・ すぐに帰国する 31.0%（日本人の場合 36.0%）
- ・ 分からない 10.3%（日本人の場合 8.0%）

→ 安全を確認できれば観光を続けたいとの希望が多かった。地震後、安全についての状況を伝えることができれば、観光を継続できるのではないか。

地震後も観光を続けるか(外国人)



(3) 避難標識の理解度



- ① 避難所標識 正答率57.1%（日本人の場合 80.0%）
- ② 津波・高潮標識 正答率78.6%（日本人の場合 76.0%）
- ③ 津波避難場所標識 正答率46.4%（日本人の場合 64.0%）
- ④ 津波避難ビル標識 正答率60.7%（日本人の場合 92.0%）

→ 日本人に比べると理解度は低かった。

(4) 地震に関するパンフレットが必要だと思えますか？

- ・ Yes 86.1%（日本人の場合 73.1%）
- ・ No 13.9%（日本人の場合 26.9%）

地震に関するパンフレットの必要性



→ パンフレットの需要が比較的あった。

(5) どんなタイミングでパンフレットを入手するのが望ましいと思いますか？



→ 旅行前・飛行機・入国時など、事前に知っておきたいという傾向があった。

(3) 避難標識の理解度



- ① 避難所標識 正答率57.1% (日本人の場合 80.0%)
- ② 津波・高潮標識 正答率78.6% (日本人の場合 76.0%)
- ③ 津波避難場所標識 正答率46.4% (日本人の場合 64.0%)
- ④ 津波避難ビル標識 正答率60.7% (日本人の場合 92.0%)

→ 日本人に比べると理解度は低かった。

(4) 地震に関するパンフレットが必要だと思えますか？

地震に関するパンフレットの必要性

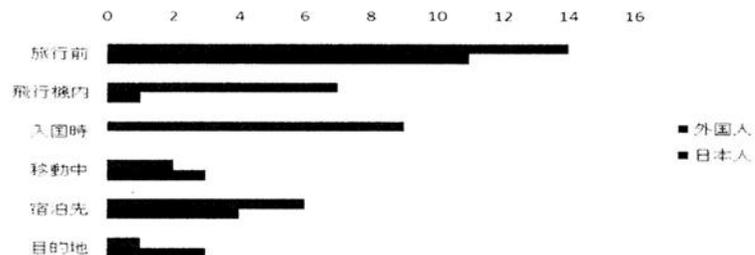
- ・ Yes 86.1% (日本人の場合 73.1%)
- ・ No 13.9% (日本人の場合 26.9%)



→ パンフレットの需要が比較的あった。

(5) どんなタイミングでパンフレットを入手するのが望ましいと思えますか？

パンフレット入手のタイミング



→ 旅行前・飛行機・入国時など、事前を知っておきたいという傾向があった。

香川大学危機管理先端教育研究センター 副センター長 岩原廣彦特命教授
まとめによる



②空洞化してきた都心部が一転、高層マンション増加により、避難所が機能しにくい状態に …

「避難しない避難」「ミニ防災拠点化」の提案……災害弱者として香川県立盲学校が地域と取り組んだ社会実験の一般化事務局 花崎哲司 (イトーピア高松自治会副会長・管理組合理事)
 イトーピア高松自治会 イトーピア高松管理組合
 香川県技術士会



高松 “避難しない避難” マンション住民の模索

- 急増する高層マンションにおける防災対策の実践研究
- 住民が高齢化したマンション

成果 海辺の築40年、高齢化するイトーピア高松(410戸)自治会が、防災講演会、夜間防災訓練、巨大な災害発生時の選択肢の一つとして「避難しない避難」のための「マンション探検隊」や備蓄の開始。防災意識が著しく向上。全国各地から照会が相次いでいる。

※NHK「おはよう日本」で放送、読売新聞既報



- 予想最大震度6強
- 津波高2～3m ●避難路全域が浸水域
- 液状化危険度A
- 付近に高層マンションと木蜜地域迫る
- 避難所まで600m
- 避難所キャパ1500 備蓄物資ほとんどなし
- 周辺人口8000以上
- 高齢化 避難困難



築40年を迎えたイトーピア高松

高松では最初の大規模リゾートマンション 建物とともに居住者も高齢化がすすむ

立地 大釣場海岸直近 埋立地

南海トラフ地震最大規模での被害想定では、

最大震度6強 液状化危険度A 最大津波高2~3メートル

電柱の倒壊や液状化 近隣に漁港 木造家屋密集地域が近接

避難所は1500人収容予定の新番丁小学校、施設や備蓄が脆弱

発災後2時間をめどに避難所開設を目指すという行政

ドーナツ化現象から一転、近隣に15階超の高層マンションが増加

脆弱な広域避難所

そもそも避難困難

「避難しない避難」



「上を向いて歩こう」網の目のような電線やケーブルや積った電柱

避難困難⇒人に頼らない防災を目指そう 避難困難が強く予想されるならば

マンションの防災拠点化構想 孤立を見通したフェイルセーフな仕組み作り

危機管理部
コミュニティ
自主防
女性防火クラ
ブ

大学
政府系研究機
関
との連携



管理組合でできる備え

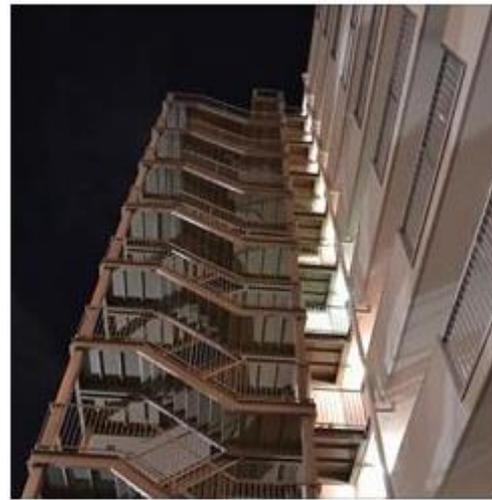
自治会でできる備え

両隣りでできる備え

各戸でできる備え

●FCP まずは家族から
Family Continuity Plan

押し寄せる災害



花崎哲司さんが写真9件を追加しました。

2017年6月8日

20170607 イトーピア高松自治会+理事会の会合開き、NHK高松取材に入る。避難困難な海岸沿いの大規模なマンション。建物の居住部分に大きな被害はないだろうとの一級建築士による簡易耐震診断に基づいて、東南海トラフ地震発災時には「避難しない避難」つまり、避難所に行ってもスペースがない、備蓄がない、液状化などで避難はかえって危険や生命を脅かす事態になるぐらいならば、最低限の備えでマンションに籠城して命をつないでみようという取り組み。「四国遍路の心でつなぐ防災教育研究会」(内閣府防災教育チャレンジプラン採択団体)の研究実践の取り組みの一つとしても興味深く取り組んでいる。避難所経営の困難さを考えて、林立するマンションそれぞれが、自分たちの命を守り、助け合う仕組みづくりができれば行政の負担もかなり軽減できるでしょうよという発想。ただし、多数の居住者をどうまとめ上げていけるかがひとつの技の見せ所となる。ちなみにこちらは410戸。山からの写真では、一番海沿いに見えている口型の十階建てのマンション、築40年。現行の建築基準法では耐用年数まであと十年足らずだが、東急建設によるまじめな工事。RC建築もまじめな造りなら強度が最高になるのが施工後50年という学説から行けば、まだまだ耐えるはず。住民も高齢化している中、マンションを籠城できるお城のイメージで見て、外からの負の力から耐え抜こうという取り組みです。

2017.7.5 NHK おはよう日本 「避難しない避難」書き起こし

地震や津波などで被災した人が頼りにするのは自治体が指定している避難所です。
ただ、去年の熊本地震では食料が行き届かなかったり、慣れない生活が続いて体調が悪くなる人が増えたりするケースが見られました。
こうした中、高松市にあるマンションの自治会が、「避難所に避難をしない」という選択について模索を始めました。

高松市の海沿いにあるこのマンション。
およそ400世帯が暮らし、住民の多くは高齢者です。
自治会長の猪又妙子さんです。

地震による津波からどう避難すべきか、頭を悩ませてきました。

「私たちのマンションはこの地図で海側。」

このマンションから市が指定する避難所までは、およそ600メートル。

途中で鉄道の高架を超えなければなりません。

「途中、電柱とかが倒れてくる危険性もありますし／

高齢者の方がおられるので（避難は）苦勞すると思います。」

この日マンションの自治会が開かれました。

ここで猪又さんは、ある提案をしました。

津波が来ても避難所には避難せず、マンションに残るという選択です。

「逃げられないということも考えた上でマンションとしてどうやって過ごせばいいのか／

一緒に問題を考えて行ければいいと思います。」

こうした動きについて高松市は、被災直後には避難所の機能が十分ではないケースもあるため、

安全が確保された上で、正しい知識に基づいていけば問題ないとしています。

「自分たちだけで考えるのでは知識が不足している場合もある。

知識を持っておられる方、技能を持っておられる方の力を借りて

防災に強い街づくりに対応していただけたら一番いいと思う。」

このマンション、津波による浸水の想定は30センチ程度です。

また耐震診断の結果、地震の揺れにはほぼ耐えられるとされています。

そこで自治会では「避難しない」ための準備を始めました。

屋上にある会議室を浸水時に低い階の人たちが避難するスペースに活用することにしました。

大きな貯水タンクも設け、数日分の飲み水として備えています。 さらに…。

「カセットガスストーブ。 冬場にこれをつけると教室1部屋ぐらいがけっこう暖かくなる。」

個人では所有しにくい大型の設備や工具などを自治会の費用で購入することも検討しています。

また住民の中に治療や看護などができる資格を持つ人がいないカリスタアップし、

より安全で快適に過ごせるようにしていきたい考えです。

「足も弱くなつてますし、（避難は）無理です。

だから自分で備えて守っていききたい。」

「皆さんと一緒に。それが安心かな。」

「必要なものをそろえてより快適にここで避難できるようにしたいと思います。」

各地で高齢化が進み、マンションに住む人が増える中、

住民みずからが避難方法を議論することは意義があると専門家は指摘します。

「臨機応変に状況を判断してあらゆる選択肢があるかと思しますので／

どのように行動すれば自分たちの命と生活を守る、

さらには地域のためにもなるということ

皆さんで十分議論をして決めて頂くプロセス、そこが非常に重要になる。」

大きな災害が起きた際、より現実的に即して「避難をしない」という選択。

地域の防災に新たな一石を投じるのか、注目されます。

岩原教授は、避難所に避難をしない場合、情報や物資の補給などの面で孤立しないよう、行政や地域との連携を密にしておくことが大事だとも指摘していました。

一方、高松市でも去年の熊本地震を教訓に、避難所に来た人たちに

より快適に過ごしてもらうため運営マニュアルを改訂し、

きめ細かいサポートができるよう改善を進めているということです。 ###



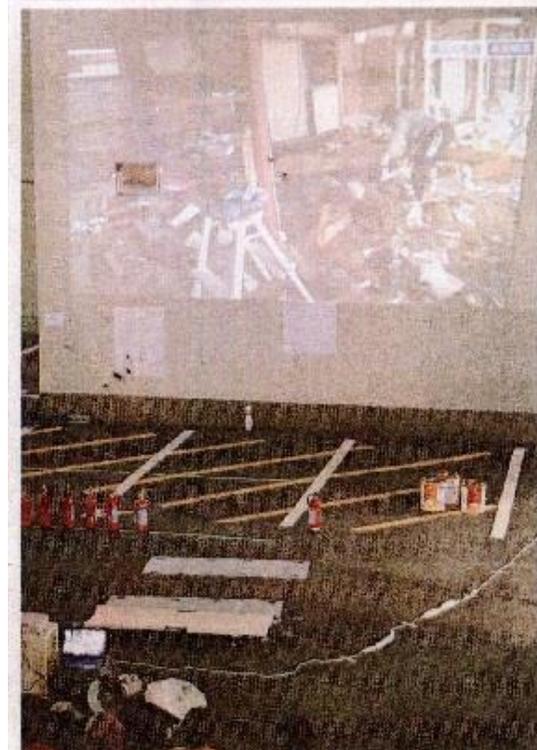
防災は他人ごとではない まずは自分と家族を守ることから考えよう FCPの理念
命を守ることを行政頼みにしない自主的な取り組み 意識向上 行政の負担軽減にも

これまでの経過

- 2016年度 築40年、高齢化するマンション防災について提言を始める
- 2017年度
 - ・防災に関する講演会を繰り返し開催して住民の合意を得る
 - ・マンション探検隊（施設設備 エレベータ 消火栓 水タンク 他）
 - ・街歩き探検隊（周辺の地域性をよく知るために）
 - ・夜間防災訓練（布担架 水消火器体験 茨城県の被害動画視聴）
 - ・各戸 自治会 管理組合 それぞれの役割分担 相互乗り入れ検討
 - ・各戸で10日分の衣食住の備えはしておくことの提言
 - ・餅つきに併せて各戸訪問と生活実態の聴き取り
 - ・自治会がトイレ用消臭機能付きビニール袋5回分を各戸配布
 - ・自治会と管理組合で備えるものを検討開始 防災予算を整備
 - ・マンションオリジナルの防災マニュアル作り着手

検証 いったん動き始めると皆さんとても意欲的。「気になってはいたんだけど」なぜ取り掛かれなかったのか

- ・きっかけになる出来事や「言い出しっぺ」がいなかった。
- ・知識や何をしていいかわからなかった。 ・耐震診断が非常に高額



壁面に映し出す津波の恐怖

防災の日（9月1日）を前に、高松市浜ノ町のマンション「イトーピア高松」で30日、住民たちがマンション壁面に東日本大震災の被災地の映像を投影し、災害の恐ろしさを実感する訓練を行った。

イトーピア高松自治会によると、大地震の際、海に近いマンション周辺は液状化が予想されるうえ、最寄りの避難所では住民を収容しきれないとい

津波で壊された民家の映像に見入る住民ら（高松市で）

高松のマンションで投影

う。このため、同会はほぼ月1回、防災をテーマに講演会を開き、住民それぞれが避難方法を考えるなどしている。

この日は、東日本大震災直後に茨城県北茨城市で撮影された様子がマンション壁面（縦6m、横10m）に投影された。津波で1階部分が失われた民家や、線路の上に流されてきた乗用車など、生々しい災害の爪痕に住民は息をのんだ。

その後、壁面に火災の映像を映し、住民たちは壁に向かって水消火器を使う訓練を行った。

自治会の花崎哲司副会長（59）は「県内は災害が少なく、市民の意識も低い。高齢化する地域の防災力を高めるため、まずは心構えをしてほしい」と話した。

2017.08.31 読売新聞

- 知識と体験を積み重ねることによって、決まった一つの方向性だけに偏らず、多様な災害対応ができるコミュニティづくりのために 住民たち自らが考え進める防災の仕組みづくり
- 組織の柔軟性をもたせるために航空機の設計に生かされている「フェイルセーフ」の提案「油圧がダメなら電気力で、あるいは補助動力APUで あるいは風力発電 手動で」

27 地域
2017年(平成29年)8月6日(日曜日)
香川 高松

香川

高松総局
〒760-0017 高松市番町1-10-21
☎087-861-4350 FAX 862-8496

坂出通信部 ☎0877-46-3994
観音寺通信部 ☎0875-23-2867
小豆島通信部 ☎0879-62-0871
東讃通信部 ☎087-894-8004

ホームページ
<http://www.yomiuri.co.jp/local/kagawa/>

販売のご用は ☎087-812-6640
広告のご用は ☎087-831-1841
折り込みのご用は ☎087-888-6133
読売旅行は ☎087-834-4343

エレベーター内の防災グッズなどを確認する住民たち（高松市で）

「避難しない避難」もあり

高松 マンションで防災勉強会

高松市浜ノ町の海辺近く「いたつマンション」イトーピア高松で5日、敷地内や周辺地域を見て回る防災勉強会が、住民を対象に開かれた。

イトーピア高松自治会によると、周辺にはマンションなどの住宅が増えており、最寄りの避難所では収容できない恐れがあるという。自治会は、被災してもマンションにこもり、生活できる仕組みづくりを進めている。

この日は、住民約30人が参加。マンション内を巡回し、▽階段の電灯が非常灯でないため停電時には副会長の花崎哲司さんなどに、危険とされる箇所もみながら、避難所を確認した。マンション内を設置されている非常用ボックスの開き方などを確認した。マンションを確保して避難する際に、危険とされる箇所もみながら、避難所を確認した。マンション内を設置されている非常用ボックスの開き方などを確認した。マンションを確保して避難する際に、危険とされる箇所もみながら、避難所を確認した。

病院の実:
医療機関

医療機関名

徳島大
徳島赤十字
県立中央
香川労災
香川大
三豊総合
高松市民
坂出市立

国・四国がんセンター
徳島大
県立中央
済生会今治
松山赤十字

高知医療セ
高知大
「国・」は国立
センター。「一」

香川中央2回戦へハンドボール

ラモデルトなど120点



もみられます。圧倒的に男性が多いが、で、当院でも60〜80歳代の男性が大半です。生活習慣が大きく影響している」と

一般的です。ただ、時間もかかり、患者自身にも負担のかかる難しい手術。胸にあけた小さな穴からカメラやメ

ます。1年に1回は定期的に入間ドックで内視鏡検査を受けるなど、早期発見に努めたい。 （聞き手 猪股和也）

③アウトドアライフが、災害時の生活を乗り切る知恵と体験につながるだろうか

…遊びと防災の融合

香川県技術士会代表幹事 谷脇準蔵

アウトドアブームを受けた動き

遍路道歩き体験

四国霊場 85番札所八栗寺～86番札所志度寺までの遍路道の海岸部、災害上の特性を歩いて検証。台風接近の風雨の中で実施。

遍路の1200年の歴史の中から、自然災害に向き合ったお遍路さんの知恵、「お接待」で「おもてなし」をしてきたさぬきの風土を、冷たい雨に濡れながらクイズを楽しみながら実際に牟礼から志度までの遍路道を歩いて検証した。「災害って雨や寒さに関係なく襲ってくるんだね。」体験して分かったこと。

歩き遍路体験による防災教育への効果を検証した社会実験について (報告)

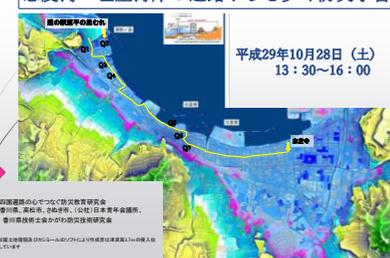


- 2017.11.25 (土)
- 香川県技術士会・かがわ防災技術研究会
- 代表幹事・谷脇準蔵
- サンポート高松市民ギャラリー

開催概要

- 参加予定者：29名
- 参加者：15名
- スタッフ：8名
- 天候：小雨
- 目的：志度湾を歩く遍路道は津波想定区域内にあることから、実際に歩きながら現地での防災に関する学習を行ってみることを試みたものであり、歴史的な街でもあることから、文化的な興味も交えながら散策することによって参加者にどのような意識の変化があるのかを社会実験として実施したものである。
- その他：アンケートを実施。

志度湾・塩屋海岸の遍路みちを歩く防災学習



Q2 津波警報が発令されました。さて、この水門は直後にどんな操作をするのでしょうか？



- ①直ちに閉める
 - ②危ないので何もしない
 - ③操作員の安全を最優先し操作の判断をする
- ヒント：実際には様々なケースが考えられますよね
- Q2:③
特に大津波警報若しくは津波警報が発表された際に、直接操作をさせないなど、操作員の安全確認を最優先にしたりして、各施設の操作規則等に基づき、的確な操作を行うものとする。
水門・陸間の操作を行う場所に避難勧告・避難指示が発令された場合や、避難時間の確保が困難な場合など、操作員自身が安全を確保できないと判断した場合は、避難を優先する。

Q3 あれれ？何だか海岸堤防の高さが違うけど何故？



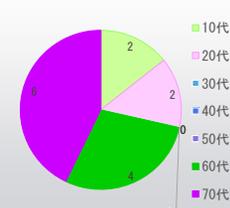
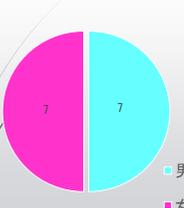
- ①作った会社が違ったから
 - ②高潮対策と津波対策とで高さが違うから
 - ③沈下してしまっただけ
- ヒント：2004年の高潮、2011年の東北地震

A3:②
平成16年の台風16号では、県下の多くの地域で既往最高潮位を更新し、広範囲に渡って高潮や波浪による浸水被害が発生しました。このことから香川県では津波・高潮対策整備推進アクションプログラム(平成18年3月)を策定し堤防の整備を進めていたところ、平成23年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」では、これまでの想定をはるかに超える巨大津波が発生し、沿岸部の市街地が広範囲にわたり浸水し、海岸堤防・漁港施設、河川堤防も被災するなど甚大な被害が発生しました。これに対して香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画(平成27年3月)により堤防整備を進める中で暫定的にこの状況が発生しています。



Q1:性別

Q2:年代



Q5:印象に残ったこと (自由記述)

- 志度の知らない街並みを知ったこと。海抜の意味、志度寺の歴史。
- 水門が多くあり、どれも立派でした。志度寺も初めてでした。
- 本堂で志度寺の歴史等を聞いたこと。お接待。
- 道を歩きながらも、色々な事が勉強できるものですね、いつもつい急ぎ足で何も見ないで歩いているのだなと思いました。防災関係も、ただ道端の花も・・・お接待のおにぎり大変おいしかったです。ありがとうございました。雨の中の避難が出来るのも一つのチャンスでした。
- 初めて志度寺にきました。雨の中、先頭さんに説明をして頂きましたが、よく判っていません。
- 平日頃より防災は大切と心掛けています。大勢で楽しみながら参加出来て良かったです。
- 遍路を歩きながらクイズ形式で防災を学べるという形態が良かったです。遍路と防災の関連性が再確認できました。
- 実際に海沿いの道を歩いて堤防を見て話しを聞いたのがよかったです。色々な種類の岩が積まれた灯籠が興味深かったです。
- 色々な事を学び楽しく歩いて、心に残る一日となりました。
- 色々、歴史を学んで勉強になりました。防災について学べて良かったです。

まとめ (成果)

- 地域と防災との関連性を知るためにフィールドに出る学習することは効果を上げることが確認できた
- 防災学習との言葉だけでは参加者に限りがあり、文化や歴史なども織り込んだ形で催行することによって参加者が増える可能性があることが分かった

「お遍路カー(軽四キャンピングカー)」への着目 アウトドアブームを防災に生かせないだろうか

公共交通機関が疲弊している香川では、家族一人に一台と言ってもいいほど軽ワゴン車が普及している。普段使いの車が、災害時の早期避難や過酷な避難所生活に代わる役目を果たせないだろうかという発想。特に高齢者にとって、避難所生活は過酷なはず。普段に近い生活環境を維持することで、関連死の減少に期待。

西日本最大級のキャンピングカー展示場

展示総台数

50台
OVER

株式会社 岡モータース JRVA

〒761-8058 香川県高松市勅使町630

TEL.087-865-5588 FAX.087-865-5599

■ 通常営業時間：AM10:00～PM7:00 ■ 定休日：水曜日

■ メールでのお問い合わせ oka@okamotors.co.jp

軽四 キャンピングカー

Miniature Cruise

ミニチュアクルーズ



OK MOTORS PRODUCE

ベース車両込み
新車価格

GOOD DESIGN AWARD
2016年度受賞

165万円

岡モータース 検索

<http://www.okamotors.co.jp>



軽キャンパー 屋根上にソーラーパネル装備で、車内に電子レンジ、LED 照明天井灯、液晶テレビ装備。ミニシンクによる水回りも確保されている。

就寝スペースは大人2人がゆったり横になれる。畳、低反発マットレスなどいろいろなオプションが用意されていてアレンジが可能。



自作する方も…
風通しや虫よけのためのカーテンも、
南国の四国らしい工夫である。

普段使いの軽ワゴン車を自分で改装して、夏季には一か月間、北海道を巡って旅を楽しむご夫婦も。(高松市 柴田さん)
「いざと言う時は、毛布を積んだらすぐ出発できるよ。」

「女性目線の遍路小屋」 空き家対策、インバウンドのゲストへの「おもてなし」、そして「災害時シェルター」として …… 遍路小屋と災害応用
 女性目線での遍路小屋の製作・インバウンドゲストへの開放 JR高徳線志度駅周辺 シェルターとしての利用や少子高齢化で増え続ける空き家活用の一策にも



サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路でアンケートを依頼する伊藤さん

志度寺は、志度寺副住職の十河瑞澄さん(40)。寺をお参りした外国人の歩き遍路に「野宿できる」ところはないか」とよく聞かれるが、境内は防犯上の理由などから勧められず困っていた。お遍路さんが使う民宿やホテルは素泊まりでも4千円以上のところ

発案者は、志度寺副住職の十河瑞澄さん(40)。寺をお参りした外国人の歩き遍路に「野宿できる」ところはないか」とよく聞かれるが、境内は防犯上の理由などから勧められず困っていた。お遍路さんが使う民宿やホテルは素泊まりでも4千円以上のところ

外国人憩う遍路宿を 志度寺・香大生空き店舗活用

スペイン巡礼路で調査も

歩き遍路をする外国人向けの遍路宿をつくるプロジェクトを、86番札所・志度寺(さぬき市)と香川大の学生が進めている。スペインの世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」の巡礼者へのアンケートや、遍路宿の調査も実施した。それらを参考に、JR志度駅近くの空き店舗を改修して今秋オープンする予定だ。

「野宿できる」ところはないか」とよく聞かれるが、境内は防犯上の理由などから勧められず困っていた。お遍路さんが使う民宿やホテルは素泊まりでも4千円以上のところ



アルベルゲの室内=いずれも伊藤さん提供

改修の設計を担うのは、香川大工学部4年の伊藤萌子さんの2人。昨年度、高松市内で女性専用の遍路宿をつくるプロジェクトに参加した藤井容子助教の研究室に所属し、卒業研究として取り組んでいた。昨年度の活動を知った十河さんが藤井助教に連絡を取り、コラボが決まった。

年間二十数万人が巡礼するとされるサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路を参考にしようとして、伊藤さんを含めた学生3人と十河さんは8月初旬、スペインに調査に出かけた。巡礼路に沿って数々の集落にアルベルゲと呼ばれる巡礼宿がある。1千円前後で泊まれるのが特徴だとい。

伊藤さんらは巡礼路を25キロほど歩き、終点で巡礼者約130人を対象にアンケートを実施。高齢者が多い四国遍路と違って、20代が一番多く、目的に観光を挙げる人も多かった。大多数がアルベルゲに宿泊し、宿を選ぶ際は立地条件や宿泊料金、清潔感を重視する傾向が強かった。

実際に計6カ所のアルベルゲに宿泊したり、見学したりもした。伊藤さんは「小さくてもきれいで、男女一緒に泊まれる部屋でも気にならなかった。宿の近くに飲食店もそろっていて、気軽に泊まったり、食べられたりするシステムが作られたら、人が来やすくなると思う」と話す。

手がける遍路宿は、男女別室で、シャワーのほか、アルベルゲにもあった同宿者と交流できるスペースを設けたいという。洗濯機などの使用料として実費を取る可能性も。11月までの秋の遍路シーズンに間に合うよう完成させたいという。

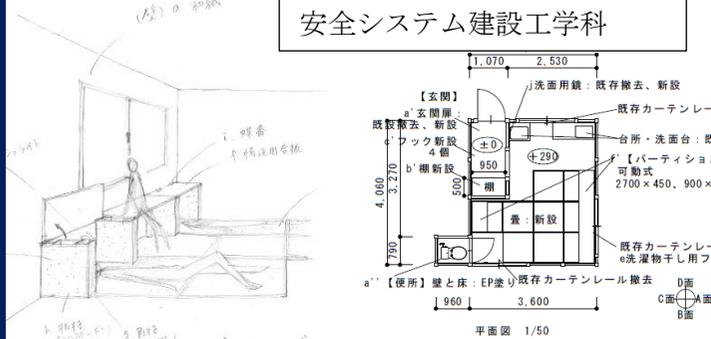
愛媛県西条市出身の伊藤さんは「お寺の人と協力して後に残るものをつくれる機会がある人を増やしたい。地元四国に来る人を増やすのに私も協力できたい」と話している。十河さんは「地方の大きな問題である空き家を、遍路という四国の文化を生かして解決できればいい」と話している。プロジェクトに若い人が参加してくれたい。

(多知川節子)



寝台特急電車 のびのびシートをヒントに空き家を改装

香川大学工学部藤井容子助教 安全システム建設工学科



パース図から図面起こし、施工へ(高松市中山町)



志度寺×香川大生

外国人に格安遍路宿を

四国霊場86番札所・志度寺(さぬき市志度)は香川大の学生と協力し、近年増加している外国人の歩き遍路向けに格安の遍路宿をつくるプロジェクトを進めている。外国人のニーズをつかもうと、スペインの世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路」で、巡礼者へのアンケートや巡礼宿の視察も行った。JR志度駅近くの空き店舗を改修し、秋のお遍路シーズンに合わせて11月までのオープンを目指している。

同寺などによると、四国霊場の上がり3カ寺が位置するさぬき市内には、遍路宿が10軒ほどあるが、素泊まりでも料金が4千円以上するという。お金をあまりかけたくない外国人の歩き遍路には、 TENT を張って野宿する人も多い。

志度寺副住職の十河瑞澄さん(40)は、ここ数年、寺を訪れる外国人から野宿が可能な場所を聞かれ、対応に困ることが増えてきた。そこで、寺所有の空き店舗(同市志度)を活用し、格安の遍路宿を実験的に整備することを発案した。

プロジェクトに賛同し、卒業研究として宿の設計を担当するのが香川大工学部4年の伊藤萌子さん(22)。昨年度、高松市中山町に女性専用の遍路小屋をつくるプロジェクトに参加した藤井容子助教の研究室に所属しており、プロジェクトを知った十河さんが藤井助教に協力を依頼した。

十河さんと伊藤さんらは8月、サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路を参考にしようとしてスペインを訪問。1〜2千円ほどで泊まれる簡易宿泊所「アルベルゲ」で寝泊まりし、

スペイン巡礼路で調査も

巡礼者約130人にアンケートを実施した。その結果、宿を選ぶ際には宿泊料金や立地、清潔感を重視する人が多く、「同居人と語らえるスペース」や「貴重品を鍵で管理できること」を重視する傾向も見られた。調査結果やアルベルゲでの宿泊体験を基に、さぬき市に整備する遍路宿には、男女別の宿泊室やシャワーのほか、宿泊者同士が交流できるスペースを用意する予定にしている。

十河さんは「四国遍路の世界遺産登録への一助にするのと同時に、地域の空き家や空き店舗の問題解決につながれば」と期待する。伊藤さんは「形に残るものをつくるのは貴重な体験。みんなが交流できる宿にしたい」と意欲を見せている。



スペインで「サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路」の巡礼者にアンケートを取る伊藤さん



空き店舗で遍路宿への改修案を練る(左から)十河副住職伊藤さん、藤井助教(さぬき市志度)

空き店舗利用し開設へ

四国遍路の心でつなぐ防災教育研究会
 会長 十河陽之助 第86番札所 志度寺副住職
 副会長 藤井 容子 香川大学工学部助教
 同研究室 学生によるプロジェクト



楽しく学べる防災を目指した取り組み …防災って他人ごとにしらないために

防災と観光のコラボ企画 共催 (公財)高松観光コンベンション・ビューロー

防災フェス in サンポート高松

後援 香川県 高松市 日本技術士会四国本部



岩原先生の「よろず防災相談」分かりやすく好評



技術士会や青年会議所の講演がつづく



NTT 西日本による衛星通信 岡モータース車両展示



「防災クイズラリー」は香川県技術士会が担当 いろいろなケースについて楽しく学ぶ



3つのイベント参加でアルファー食品提供の備蓄米プレゼント



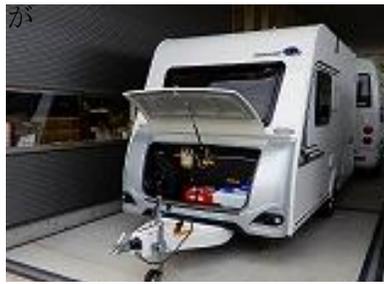
高松市北消防署のおかげで防災力アップ



NTT 西日本 災害用伝言ダイヤル 171 体験コーナー



30秒で災害情報や家族への思いをどう伝えるか
災害用伝言ダイヤル 171 メッセージコンテスト
西日本電信電話(株) 西川香川支店長も笑顔で表彰に



フランス製のキャンピングカーに関心集まる けん引免許/固定資産税不要 自動車税/車検は必要 ベース車価格が200万円 そもそも耐震化の必要なし
3口のカスレンジ(カセット式)、広いシンク、冷蔵庫、テレビ、シャワー。トイレ、エアコンまでついて5人がゆったり過ごせる居住空間 普段に近い暮らしができることが魅力的



香川県交流推進部国際観光推進室 山口室長補佐の講演
インバウンドの増加率が全国一となった香川県

⑧ 受入環境の向上(今後の課題)

一方で、緊急時の対策も課題となっている。

✓ 災害対策

- ・南海地震、豪雨などへの懸念の高まり
- ・土地鑑がなく円滑な避難行動が困難
- ・災害時の最新情報の入手やコミュニケーションが困難



✓ 急病・怪我の際の対応

- ・外国人観光客の急増
- ・旅行保険の未加入者が多い
- ・言葉が通じないこともある



➤ 観光・宿泊事業者、医療機関、防災関係団体などと連携した取組みが必要

観光立国、観光立県

2020年 TOKYO に向けて

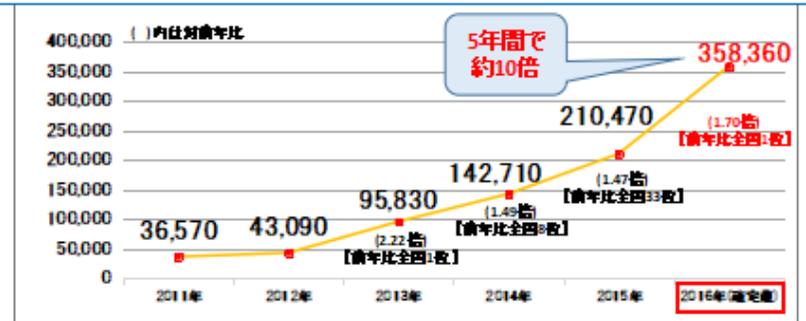
安心・安全な

旅行を提供するために

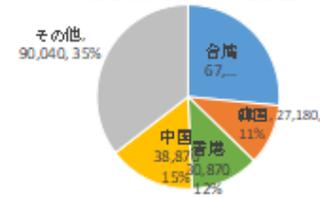
観光行政や業界との

連携を大切にしたい

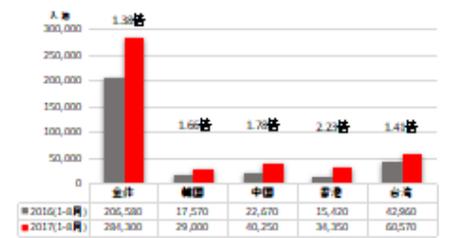
② 外国人延べ宿泊者数(香川県)



国籍別割合(2016年推定値)



2017年(1-8月)の状況(香川県)[速報値]



高松市牟礼町の津波浸水域に行くヨーロッパ系の「歩き遍路」のグループ。観光と防災の協力体制の必要性を実感した。やはり防災などの安全情報提供は重要。事務局

香川) 避難に役立つ軽キャンピング車など 高松で防災フェス

2017年11月26日03時00分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷



県内で寝泊まりもできる軽キャンピングカーを見学する来場者＝高松市



災害用伝言ダイヤルを体験する家庭連れ＝高松市

県内の企業・団体や個人でつくる「四国遍路の心でつなぐ防災教育研究会」が25日、サンポート高松で防災フェスを開いた。内閣府の防災教育チャレンジプランに採択された研究会の活動報告のほか、災害時の避難生活にも役立つベッド付きの軽キャンピングカーの展示などがあった。

研究会は、四国遍路のもつ自然に向き合う力やお接待の心を防災に生かそうと昨年設立された。フェスでは、86番札所志度寺(さぬき市)への遍路道を歩きながら、いま地震が起きたらどう行動するべきかクイズ形式で学んだ10月の活動などについて報告があった。

研究会事務局の花崎哲司さん(59)は「香川で大きな災害はないと思っている人も多いが、歴史を見ればそうでもない。もしもの時に自分の命を守る知識と行動力を身につけてもらいたい」と話した。

関連ニュース

・ 地域ページ トップ

体験し災害に備え

高松で企画展 500人が参加



⑤災害用伝言ダイヤルのデモ機を体験する参加者⑥市民の防災意識を高めるクイズを行う登壇者＝いずれも高松市サンポートで

地震や津波など大災害に備えるため、家族の命を守るための企画展「防市サンポートであつた。県、民間企業の講演や防災に関するクイズイベントなどを通じて、参加者約500人が楽しみながら防災意識を高めた。



お遍路文化の中で育まれてきた、助け合いの精神を防災に生かす啓発活動に取り組み団体「四国遍路の心でつなぐ防災教育研究会」が主催した。会場には、災害時に回線が利用できる伝言ダイヤルのデモ機を設

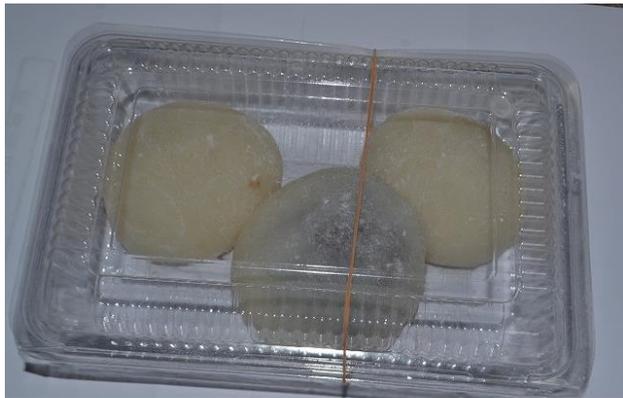
置。自分の声をその場で録音・再生し災害現場からメッセージを伝える体験ができる。NTT東日本・西日本が開発したもので災害時には全国で約800万件の音声データを登録できるという。災害時に避難し部屋として利用できるキャンピングカータイプのトレーラーと軽自動車も展示。参加者に景品が贈られる防災クイズスタンプラリーにもぎわった。【小川和久】

紙面編集 東山希美代

WG ⑥

高齢化が急速、人口が過疎地に散在、経済基盤が弱い四国地方の防災対策 …我が国の将来に期待が期待 超高齢社会 行政の負担軽減に

高齢者に理解される防災教育 生涯学習として展開 公的支援に頼らない(頼れない)自ら備える地方防災



イトーピア高松自治会

今どき各戸の個人情報が入りにくい。

毎年恒例の「お餅つき」

ただお届けするだけでなく、メッセージをお付けして、できればお話しさせていただいてお困りごとがないかお聞きしてみましょうよ。孤立化防止の取り組み



高松市牟礼地区社会福祉協議会庵治支所 高齢者教室

話は静まり返って聴いてくださるが、目に光がない、「私らは、見捨てられたんや」 高齢化率 40%超えの漁村で。しかし、陶器皿が落ちて割れる音に、皆さん敏感に反応する。高齢者には理屈でなく、生活体験に基づいた教材が必要かも。

牟礼地区福祉委員研修会



この地域は急斜面にため池が多く「山津波」の危険と、海からの「津波」の恐れがあります。通りすがりの小3くらいの女の子たち「おっちゃん、なんの写真撮ってんの？環境？防災？」僕、思いました。「この町は大丈夫ですよ♪」 民生委員たちがどよめき、笑顔がこぼれた。

自治会では、災害時の避難所への移動やそこでの過
電気・ガス・水道が止まっても、建物が大丈夫な
「避難しない避難」と各戸で10日分の衣食住の備え
またご近所とはふだんから挨拶を交わって、何かあ
作っておけばよろしいですね。

備蓄品 缶詰 レトルト食品 水 アルファー米(ご飯
薬 日用生活用品など、各戸の「命をつなぐために必
「長いお手もお返し下さい」

ープランの目的・ここがポイント！

全国各地に先んじて高齢化が急速に進む四国。GDPは我が国全体のわずか3%に過ぎない。軟弱な経済地盤からインフラ整備は常に遅れがちであり、新幹線の走らない唯一の島国である。

例えば東南海トラフ地震が発生したとすれば、太平洋ベルト地帯の大都市が甚大な被害を受ける。そうすると、四国地方のような地方への支援は必ず後回しになるだろうという危機感がある。

以前、香川県立盲学校が「災害弱者と言わせない！香川県立盲学校のチャレンジ」として取り組んだ「災害弱者」のための防災教育の成果は、「歳とれば だれでもみんな 障害者」盲学校は特別な支援を必要とする方が学ぶ学校だが、周辺地域自体が「特別な助けを必要としている」というこれからの我が国が向かおうとしている超高齢化社会の防災教育に、必ずや応用が可能であると考えている。

ベースは、四国の山野を巡る四国遍路を「お接待」でもてなし、命をつないだ精神文化である。

ープランの概要

民間ベースのコンソーシアムである。大学や行政、青年会議所や自治会、研究者や企業が有機的に関連しあって、次の6つの目標を達成しようとしている。すべてが安全な暮らしに関係している。

ー期待される効果・ここがおすすめ！

- ①増え続けるインハウンドのゲスト、外国人労働者に向けた「BOUSAI」
 - ②空洞化してきた都心部が一転、高層マンションの増加 「避難しない避難」
 - ③アウトドアライフブームと「防災」を関連付け、キャンピングカー防災拠点
 - ④お遍路文化に根ざす「おもてなし」「お接待」。空き家のシェルター利用
 - ⑤楽しく学べるフェスの開催 ⑥高齢化が急速に進む地方防災の在り方
- 県民の意識の底上げにより、一人一人のレジリエンスが高まり、行政の負担軽減につながる。

ー成果として得たこと

- ①来日する外国人旅行客や、国内で働く多くの外国人に向けた我が国の防災教育の成果が提供される。
- ②高層化するマンション自治会に呼びかけ、マンションの「ミニ防災拠点化」が図られる。
各戸には10日分の衣食住の備えを呼びかけ、初動の避難所への負担軽減が期待されている。
高齢化した住民は、無理をして避難所に行くべきなのか。「避難しない避難」の選択肢の検討に。
- ③普段使いの軽乗用車が、災害時の早期避難や避難シェルターとして活用され、関連死減少に期待。
- ④女性目線の宿。普段はお遍路さんの宿として提供、災害時には避難シェルターとして活用できる。
スペインの遍路宿「アルベルゲ」を参考にし、空き家対策にも効果が期待される。
- ⑤ゲーム性や遊び心のあるイベントで、防災を身近に感じてもらう。
- ⑥人口の4割を高齢者が占めようとしている四国。みんなで共生できる社会を構築しようとしている。

ー全体の反省・感想・課題

災害体験が少なく、防災意識が低い地域での防災教育は容易ではない。災害史、自然に対峙する知識、確かな判断力と行動力を養い、地域防災力を高めていく必要がある。

「防災について語れない大人」が多いことに着目し、防災教育を「生涯学習」として社会全体で取り組む学びにしていこうという提案をしている。

ー今後の継続予定

地方都市の現実的な将来を見据えながら、お互いを思いやり
助け合って命をつなぐ仕組み作りを継続する。また、コンソーシアムの組織を、より実働的な形に再構築していきたい。



徳島県三好市吉野川で釣りを楽しむ親子
自然を肌で感じ、学ぶことも多いだろう